

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|--------------------|-----|--------------------------------|
| ○事業所名 | 発達支援施設はじめの一步 花見事業所 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和7年1月14日 | | ～ 令和7年2月5日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 67名 | (回答者数) 58名 |
| ○従業者評価実施期間 | 7年 3月 10日 | | ～ 7年 3月 21日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 10名 | (回答者数) 10名(放デイは6名) (保育所等訪問は2名) |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和7年 3月24日 | | |

○分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|--|--|
| 1 | 十分な職員配置が出来ており、手厚いサポートが可能な環境を整えている。 | 利用児の人数や特性を考慮し、携わる職員数や配置する場所などを検討している。 | 職員配置だけでなく、視覚支援等の環境下でもさらにサポートの強みをいかしていけると良い。 |
| 2 | 5領域における観点から、運動や机上での活動、SST等様々な活動を取り入れている。 | 運動と机上の活動は毎日取り入れ、静と動のメリハリをつけ、切り替えの経験を抵抗している。 | アセスメント、利用児発達の指標となるものにスタッフが観察し、小集団療育、個別療育に生かしていく。 |
| 3 | 多機能型、相談支援専門員との密な連携。同法人内の姉妹園との連携が図りやすい。多種多様な専門スタッフの個別療育が行える。 | 部屋割をしながらも環境を整え療育を行っている。専門職がグループに入り、適必要なサポートを行っている。より集団の中で取り出した言語の支援を行っている。 | 専門職の増員。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|------------------------------|---|
| 1 | 問い合わせに順次対応するが、受け入れ枠が若干名もないという点でお断りせざるを得ない。 | 行政からの紹介、相談からの紹介のお子様が多くなっている。 | 見学対応は随時。待機希望の方は適時連絡して確認。速やかに対応していかなければならない。 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |